



北浦小だより

# Hop Step Jump 第44号

令和4年2月28日

ホップ・ステップ・ジャンプ

(HP) <http://www2.sopia.or.jp/kitaurael/>

文責:校長 武田 民弥



## 「笑門来福」・・・「ロコ・ソラーレ」から学ぶ

3学期始業式で私から児童へ「笑門来福」について話をしました。主な内容は以下の通りです。

「笑門来福」は「しょうもんらいふく」とか「笑う門には福来たる」などと呼びます。皆さんも毎日元気に生活していれば笑顔も多くなると思います。しかし、時にはつらい時もあると思います。そんな時、つらいつらいと言いながら、暗い顔をして生きるのか、おなかの中はつらい気持ちでいっぱいでも、顔は笑って生きるのか、皆さんはどちらを選びますか？

私は、笑って生きる方を選びたいと思います。皆さんは、令和の時代はもちろん、二十一世紀の社会の中心となって生きる人たちです。その輝ける未来に「福」をよぶために、笑顔で生きることを心がけてみてはいかがでしょうか。

北京オリンピックで「カーリング」を観る機会があったことと思います。右記事にあるようにロコ・ソラーレの大活躍で銀メダルと獲得するという快挙を成し遂げました。その原動力となったのは『笑顔』だと言われました。緊張の一投の前でも笑顔でストーンの準備をしたり、笑顔で作戦を言い合ったりする姿は、観ている我々に勇気を与えてくれていました。まさに「笑門来福」でした。

ミスしても「ナイス～」と声を掛け合い、ハイタッチを交わす姿は、チームのメンバーを信じ、自分を鼓舞しているように感じました。

カーリング競技はスポーツマンシップとフェアプレーの下、審判を置かず選手同士が判定するセルフジャッジを基本としています。相手のミスを楽しむなどの行為を慎み、大差がついたときは「コンシード」(「許す・譲る」)と発し、相手の強さを認めつつ自ら、勝負アリと認める潔さを感じさせてくれる競技です。『カーリング精神』は、「相手を邪魔せず、最善を尽くそうとすることを認め、不当に勝つくらいなら負けを選ぶこと」(一部抜粋)とされています。そうしたフェアプレー精神と潔さも『笑顔』と同じようにカーリングの魅力なのかもしれません。



【令和4年2月21日 茨城新聞より】

### 学校評議委員・評価委員会が実施されました ～教育活動の評価をいただきました～

2月18日に学校評議委員・評価委員会を実施しました。学校側から映像資料をもとに学校教育目標達成へ向けた取組、学校評価アンケート結果について説明させていただいた後、御意見をいただきました。各委員さんからは、「コロナ禍でも学校や保護者の方の御協力の下、安全安心な学校環境を整え、宿泊学習や遠足、運動会、校外学習など様々な体験活動を設定し実施した様子が伝わってきた。」とお褒めの言葉をいただきました。

改善すべき点は次年度への課題としてしっかりと受け止め、より有効な策を講じていきたいと思っております。



### 「学校だよりへの感想」

をお願いいたします。

※ 締切：3月11日までに延長

2月9日～18日までがオンライン授業に変更になったためか、「学校だよりへの感想」の集まりが今ひとつです。私が発行させていただく「学校だよりHop・Step・Jump」は3月をもって終了となります。

誠に心苦しいのですが、締切を延期させていただきますので、感想提出への御理解・御協力をお願いいたします。記入用紙がなくなってしまった場合は、学校へ連絡ください。

